

ティール湘南大会野球規則

少年野球、リトルリーグなど野球団体で、小学3年生以下のチームを対象とする。
グラブ、金属バットは各自の団体の公認道具を使い、ユニフォーム着用が原則である。
選手は9人、3アウト制。試合は6イニングス、試合時間は30分を越えて次のイニングに入らない。

【球場施設】 内野は塁間18.3m、投手板迄は14.0m（ボールデッド・サークルは直径2m）。本塁からインフィールド 7.0mの範囲を特別ファウルゾーンとしてラインを引く。外野は42m～45mの広さを目処に、当日の球場造り時に任意に設定する

【使用球】 セーフティボール(ZETT製)を使用。

【バット】 通常使用しているバット又は主催者提供のバットとする。

【バッティングティー】 上下に伸縮でき、本塁ベース上に安定して置くことが出来る打撃ティー(神奈川県野球協議会のものを使用)。

【用具・衣服】 各野球団体の規則に適合したグラブ、ミット、シューズを使用、ユニフォームは統一したものが原則(混合チームは除く)。背番号は必要である。

【チーム編成】 成人の監督(責任者)1人とコーチは4人以内とする。
少年野球、リトルリーグなどのチーム。3年生以下で編成されたもの。選手は20人以内。

【監督】 チームの運営、管理に責任を持つ成人、連絡責任者も兼ねるものとする。

【コーチ】 コーチは成人でなくても良いが、指導力がある者とする。攻撃の場合、一塁・三塁側のコーチャーズボックスで選手に指示を与えるほか、1人は主審の横で打者を指導すると共に、投手より球を受け取り、主審へ手渡さねばならない。
守備の場合、2人以内がインフィールドに入り、捕球や送球にアドバイスをあたえることができるが、インプレーのボールに触れてはならない。(ただし決勝戦は入れない)

【選手・選手交代】 9人で行う。野球方式で選手は交代したら復帰できない。

【審判】 4人制で行う。リトルリーグ所属チームはチームより2人の審判を帯同審判として選出する。審判割り当てについては大会本部にて決定する。

【試合】 6イニングス、又は時間制限とし30分(30分を越えて次のイニングに入らないものとし、成立しているイニングで勝敗を決する)。同点の場合は選手9人によるジャンケンを行う。決勝は時間に関係なく6回実施する。

【集合】 チームは試合開始時間の5分前にはグラウンドに集合し、グラウンドの記録係に到着確認をする。使用ベンチは組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。試合時間を過ぎてグラウンドに集合していない場合は失格とする。

【試合開始】 両チーム主将のジャンケンで攻守を決めた後、守備側の選手が定位置につくと主審がボールをティーの上に置き「プレーボール」を宣言する。投手はこの後、投げる動作に入り、打者はその終了後にティーの上のボールを打つ。

【バッティング】 フルスイングしなければならない。また、投手が投球姿勢に入ったら、打撃姿勢(軸足)を変えてはならない。もし打撃姿勢を変えてバッティングティー上のボールを打った時、アウトの場合はそのまま。アウトにならなかった時は打ち直しとする。(守備側が不利とならぬジャッジとする)この件の判断は、全て主審が判断する。

【ファウルボール】 打球が7mの特別ファウルラインを超えた時、又はライン上の時は全てインプレイとする。よって、7mのファウルラインの前でボールに触れた時は、全て(フライも同様)ボールデッドでファウルとする。ファウルグラウンドも7mのラインがあるものとして扱う。また、主審がフルスイングと認めなかった場合もファウルとする。

【三振】 2ストライク後、ボールにバットが直接当たらない場合は三振とする。

【離塁】 ランナーはバッターがボールを打つまでは離塁してはならない。審判が早いと認めたときはアウトとする。

【ボールデッド】 外野に飛んだボールが内野に戻りプレイが一段落した時点(中継プレイが終わったとき、または内野にボールが止まったとき)で審判員は速やかにタイムをコールする。(審判員は走者の暴走行為による守備側の混乱を防ぐ)また、内野内の打球によるプレイは、プレイが連続しているか否かを見極めてタイムをとるそのとき、走者が次塁達していないときは到達していた塁に戻らせる。

【ヘルメット】 捕手は必ず両耳保護付ヘルメットを着用する。その他はバッターも含め任意とするが安全のため打者、走者ともヘルメットの着用が望ましい。

【攻守交代】 1イニングは3アウト制、又は打者一巡で終わる。1イニングで9人目の打者はアウトカウントを2アウトとする。

**※大会野球規則は変更する場合があります。
変更した場合はメール又はFAXにて連絡いたします。メール又はFAXの送信先をお知らせ下さい。**